

# 新安川における内水対策について（案）

## 1. 浸水被害状況について

平成22年7月梅雨前線豪雨により、新安川流域下流域において7月14日長束駅周辺及び新安川左岸側周辺部等において、広範囲な浸水被害が発生した。

（浸水家屋数：床上浸水11棟，床下浸水527棟 広島市災害対策本部調べ）

## 2. 浸水原因について

平成22年7月10日～14日にかけて西日本に停滞した梅雨前線の影響により、太田川本川水位が上昇し14日12時に最高水位TP+5.47m（祇園大橋水位）となった。

本川水位の上昇に伴い、新安川河口部の樋門を閉鎖しポンプ排水（5m<sup>3</sup>/s）を行ったが、14日9時までの時間雨量が31mmに達したことから、ポンプの排水能力以上の流出が発生し内水被害が生じたものである。

（祇園大橋降雨：14日8時まで200mm超，流出量ピーク14日9時29m<sup>3</sup>/s）

## 3. 計画規模について

過去の内水実績及び計画対象降雨をカバーするもの

## 4. 内水対策の方向性（ポンプ増強規模）について

現況：6.48m<sup>3</sup>/s（新安川排水ポンプ5.0m<sup>3</sup>/sほか）

暫定目標：床上浸水の解消 約6.5m<sup>3</sup>/s増強

将来目標：床下浸水の解消 約9.0m<sup>3</sup>/s増強（床上解消+ポンプ規模約2.5m<sup>3</sup>/s相当）

表 具体の対策（案）

	項目	具体的内容	検討及び実施主体	着手時期*
ハード 対策	排水能力の増強	約5.5m <sup>3</sup> /sの新規排水機場の設置	県	2～3年以内
		約1.0m <sup>3</sup> /sの新規内水排水ポンプの設置	市	2～3年以内
	流入抑制対策	流域外からの流入カット	市	2～3年以内
	溢水防止対策	護岸の嵩上げ	県・市	1年以内
	流出抑制対策等	流域貯留施設等の整備	県・市	将来
ソフト 対策	防災情報の提供	ポンプ稼働状況を知らせるサイレン・赤色灯等の設置	県	着手済み
		XバンドMPレーダ導入による詳細な降雨量分布の監視及び情報提供（試験運用）	国・県	着手済み （H23年度内に提供開始）
	地域との連携	自主防災会組織の活動支援	国・県・市	1年以内
		浸水被害（内水氾濫）対応マニュアル作成	市	着手済み
	その他	排水ポンプ車等に関する連絡体制の確保	国・県・市	着手済み
浸水実績等の適切な情報提供及び助言		市	1年以内	

※着手時期は事業化の時期や関係機関との調整等により変更があり得る。